

2013年度 前期		リフレクションペーパー			
学科名	生物環境化学科				
科目名	微生物学				
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	2年前期
必修・選択の別	選択必修科目				
担当者	田中 賢二				
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の分類階級と分類基準を学び、微生物がどのような位置付けにあるか説明できる。 ・微生物の細胞構造、とくに原核生物である細菌類の細胞構造の特徴について説明できる。 ・カビ・酵母、細菌について主な菌類とその性質・特徴について説明できる。 ・ウイルスの体の構造と性質、特徴、病害性を説明できる。 				
日程と内容	4/8 導入講義（授業の進め方と概要の説明、成績評価法等）および微生物学の歴史 4/15 微生物の分類（生物の分類法式と進化系統樹） 4/22 原核生物（細菌）の細胞構造について(1) 4/29 原核生物（細菌）の細胞構造について(2) 5/13 酵母とカビの細胞構造（細胞の大きさ、菌糸と胞子のつくり） 5/20 微生物の増殖様式（細胞分裂、出芽、胞子形式と発芽、無性生殖と有性生殖） 5/27 細菌の分類・同定基準とBergey's manual 6/3 アーキア（古細菌）-極限環境に住む微生物群- 6/10 バクテリア（真正細菌）1-酸素非発酵型および酸素発酵型光合成細菌群と地球環境- 6/17 バクテリア（真正細菌）2-プロテオバクテリア=グラム陰性菌群- 6/24 バクテリア（真正細菌）3-グラム陽性菌群- 7/1 酵母とアルコール発酵およびカビの分類基準 7/8 主なカビの種類と特徴 -各種産業や医薬での有用性について- 7/15 主なカビの種類と特徴 -病害性について- 7/22 ウイルスの構造と増殖、主要なウイルスの種類 7/29 定期試験				
成績評価基準	定期試験	60%	実技		
	臨時試験		部外評価		
	報告書・レポート	20%	プレゼンテーション		
	課題				
	演習	20%	計		100%
授業到達目標の達成度	予定していた授業範囲はすべて実施できた。15名の学生が単位を落としたが、そのうち半分は欠席数超過により定期試験の受験資格を喪失したものか自らの意志で受験を放棄したものである。平均点は67点であり、昨年の平均点よりも幾分下がったが、出題範囲を広範囲にしたので試験勉強対策をしづらかったかもしれない。				
反省点	特に重要でない点はプリントを配布するとともに軽く流して説明時間を浮かせ、その分、重要な点はしっかりノートに記述させるとともに説明にも時間をかけた。スライド、板書、プリント、講義中の解説ともに昨年度以上に丁寧に行った。また、毎回授業のはじめに3問程度のクイズを出し、学生をランダムに指名して答えさせた。ほとんどの学生がよくノートをとり、静かに授業を行えたが、数名から10名の学生が居眠りやほとんど何もせず過ごしていた。できる限り気づいた限り注意を行い、授業に集中させようとしたがあまり効果がないようであった。それらの学生の大半が定期試験で欠点を取った。				
来年度の計画	スライドにもっと多くの研究写真を登場させるほか、微生物学のビデオも見せるなどして学生の興味・関心を高める。また授業中に教室をできるかぎり巡回して、居眠りなどが絶無になるよう学生を注意監督する。				
授業評価アンケートに対するコメント	ほとんどの項目で点数が4.0を超えたが、予習・復習の実施については点数が3.4と低かった。教員に対する評価は、8.7であり、大人数相手の講義ではあったが学生にとって比較的充実した内容だったのではないかと推察する。考慮すべきクレームも無かった。				
履修登録者数	101名	定期試験 受験者数	95名	合格者数	86名
				合格率	91%